



【難病を経験した医師が語る】科学的には正しいけれど…

私を自暴自棄にさせた 「避けた方がいい食べ物は…」



石井洋介氏〇山手台クリニック（横浜市泉区）院長。高校時代に潰瘍性大腸炎を発症。

高校1年の時に潰瘍性大腸炎と診断された。「この病気は指定難病で……」とさざっと言われたのはショックだった。「指定難病」という言葉はインパクトが強く、「不治の病=お先真っ暗」との図式が出来上がってしまった。

また、治療の際につらかったのは、食事指導だ。「避けた方がいい食べ物」として「刺激物、油を多く使った料理……」など、かなり広い範囲で指摘された。結果、放課後に友達とファミレスに行っても、コーンスープくらいし

か食べられるものがない。病気の話友達にするのも恥ずかしく、「お金がないから節約してるんだ」と、当初は嘘をついていた。だがそのうち、付き合いもおっくうになって、最後は高校に行くのをやめてしまった。

繁華街でブラブラして過ごすようになると、自暴自棄になり、治療もどうでもよくなってしまった。フライドチキンなんかを食べて大出血を起こし、緊急手術で大腸を全摘出することになった。生物学的な治療効果を追いすぎ

て、生きる気力を失い、結果的に治療のアドヒアランスを保つモチベーションも失われたのだった。

我慢すれば完治するわけではない以上、両方の兼ね合いが一番良い状態にしておく方が、全体的な治療成績が良くなるんじゃないかと思っている。

その後の石井氏の話はこちら

患者を突き放す言葉
「そんなに痛いわけない！」

<https://nkbp.jp/2LQmLU>



子供が喘息もちで、別の病院でもらった薬を飲ませた。夜間に症状がひどくなり、夜間救急を受診したところ、「喘息の子供にこんな薬を飲ませるなんて間違っている」といきなり怒鳴られた。（40歳代、女性）

突然倒れて、救急搬送されたことがある。てんかんの検査もしたが、原因不明で、医師からは「絶対にてんかんではない、でも原因は分からない」と言われて、今後が不安になった。（30歳代、女性）

他にもこんなこと言われました！
（患者アンケートから）

インフルエンザが流行っている時期に風邪を引いた。国家試験を控えていたため、「インフルエンザの検査をしたい」と言ったら呆れたように「必要はない」と断られた。（30歳代、女性）

「肺中皮腫の潜在リスクがあるので、見てほしい」とリクエストしたところ、「現在はCOPDについて診ているから、アスベスト禍に強い医療機関で相談せよ」と言われた。（70歳代、男性）

かかりつけ医の紹介で大病院の耳鼻咽喉科を受診して手術したが、全く改善しなかった。その旨を伝えたところ、「紹介した医師に返す以外に私にはできません」と一言。（60歳代、男性）